

自分や他人のよさを認め、互いに尊重し合う子どもを育む

豊かな心の育成

道徳教育の充実を目指して

小学校は平成30年度から、中学校は今年度から道徳が「特別の教科 道徳（道徳科）」となりました。教科書が導入され、子どもたちを励まし伸ばすための評価も始まりました。

日の出小学校、日の出中学校では、「豊かなかかわりを通して、他者と共によりよく生きようとする児童生徒の育成」を研究主題として、道徳科の研究発表会を行いました。市内外から多くの先生方が道徳科の授業を参観し、「考え、議論する道徳」の授業のあり方について協議しました。

“ぼくのせいじゃない”  
（道徳教育映像教材 千葉県教育委員会）  
日の出小学校1年生の道徳科の授業

映像教材「ぼくのせいじゃない」は、主人公の正太が、友達に腕を引っ張られたことが原因で、女の子の描いた絵を汚してしまいます。「ぼくのせいじゃない」と言って教室から出ていった正太の気持ちを、「心情メーター」を使い、もやもやした気持ち（青色）とすっきりした気持ち（ピンク色）を色で表します。「正太はなぜ謝ることにしたのでしょうか」という先生の問いに子どもたちは「大切な友達だから」と、ピンク色のハートを持って答えました。



3人のグループで意見を交換し合う



“あなたの命は誰のもの”（『明日への扉3年』）  
日の出中学校3年生の道徳科の授業

「このカードを知っていますか？」臓器提供意思表示カードについて、生徒に問いかけるところから授業が始まりました。臓器提供の意思決定について様々な立場の意見があることを知り、グループや学級全体での話し合いを通して、自他の生命の尊さについて考えることがねらいです。「あなたの家族の臓器提供についてどう考えますか」という先生の問いに「自分ではないから抵抗がある」「この授業中には決められない。これから話し合ってから考えたい」など、生徒は自分の意見を発言したり、友達の考えに耳を傾けたりしながら、真剣に考えていました。



幼稚園、こども園で育む“豊かな心”

幼児は、友達との好きな遊びや、様々な人たちとのかわりの中で、喜びや葛藤など、多様な感情体験をします。相手に思いやりの気持ちをもったり、自分の気持ちを調整したりしながら、友達と心地よく生活する力を付け、豊かな心を育てています。

情操を豊かにする教育の推進

本に親しむ機会を設け、情操を豊かに育む

●えほんのじかん

公民館にある図書館の分館では、「えほんのじかん」として子どもたちが本に親しめる機会を設けています。読み聞かせやわらべうたなど毎週木曜日の15:30から各分館で行っています。イベントの時には、特別な何かが登場するかもしれません。



●おはなし会

郷土博物館では、毎週日曜日、浦安おはなしの会による「おはなし会」を開催しています。千葉県文化財に指定されている三軒長屋の中で紙芝居を読んでもらうと、昔の子どもにタイムスリップした気分になります。



●読み聞かせ

見明川小学校では、1～3年生を対象に毎週、朝の読み聞かせを行っています。スタート当初から蓄積した絵本リストを参考に、その学年に適した本を選書しているそうです。読み聞かせの日には、子どもたちは、座って聞く姿勢を整えて、ボランティアの方が来るのを待っています。



文化・芸術に触れる機会を設け、情操を豊かに育む

●子ども作品展

幼稚園、こども園、保育園、小学校、中学校の作品、約1500点を展示した子ども作品展を、11月23日～25日に文化会館と市役所1階の市民ホールで開催しました。

延べ7,441名が来場し、作品を鑑賞しました。「それぞれが思い思いの工夫を凝らしてどの作品もとても素晴らしかった」という感想がありました。来館した園児は、小学生の作品を見て「大きくなったらばくも作りたい」と言っていました。



●公民館での発表

公民館では、学区の小・中学校の吹奏楽部の発表の機会を設けています。中央公民館の文化祭では、浦安小学校と浦安中学校の吹奏楽部が演奏し、文化祭を大いに盛り上げました。



「未来に向かって夢を持ち、豊かに生きる浦安っ子の育成」を基本理念に掲げ、確かな学力、豊かな心、健やかな体、豊かなかかわり、郷土愛の5つを目指す子ども像とした改訂「浦安市教育ビジョン」後期基本計画は、今年度が計画期間の最終年度となります。計画を振り返り、成果と今後の取り組みについて整理し、それを受けて、浦安市が目指すこれからの教育の基本理念と基本目標を定めた「浦安市教育振興基本計画」を次年度に向けて策定しています。